



令和元年6月15日 第822号

一般財団法人日本遺族会 本部 千代田区九段南一丁目九段南三丁目 電話 03-3261-5521 00160-6-23389 00160-6-23389 定価 毎月1部130円

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰霊救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

平成30年度決算を承認

令和2年度 政府予算 要望事項も審議

日本遺族会は五月二十四日、第十七回理事会を東京千代田区千代田会館で開催し、平成三十年度事業報告及び計算書、公益目的支出計画実施報告書の承認、さらには、英霊顕彰運動及び処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法、令和二年度政府予算に対する本部・支部の要望事項等が審議された。

会議は午後一時三十分、昨上和男専務理事の進行で開会。靖国神社に眠る英霊に感謝の黙禱を捧げた後、水落敏栄本会長(参議院議員)は、「新しい令和の時代が、平成の御代と同様に戦いのない平和な御代となり、まずよう皆様とともに先輩や先達が築いた光輝ある遺族会の活動を今後にも続けて参りたい」と挨拶した。次いで、森田次



第17回理事会で挨拶に立つ水落敏栄本会長 = 5月24日、千代田会館で

夫顧問から挨拶があった。理事に入る前に理事の出席者数を確認し、会議の成立が確認された後、議長に市来健二助副会長が選出された。議事に移り、最初に平成三十年度事業報告及び決算等が説明された後、監事を代表して池田征司氏が監事報告を述べ、審議を経て承認された。次に平成三十年度公益目的支出計画実施報告書、平

成三十年度本会議合算予算の第一次補正、英霊顕彰及び処遇改善運動が承認された。その後、令和二年度政府予算に対する本部・支部からの要望事項が審議された。また、提議された議案のうち、五月十日に常務理事会において検討されたものである。なお、提議された議案のうち、五月十日に常務理事会において検討されたものである。また、提議された議案のうち、五月十日に常務理事会において検討されたものである。



岩谷英雄氏

理事会を開催

日本遺族政治連盟

日本遺族政治連盟は、五月二十四日、東京千代田会館において理事会を開催した。平成三十年度本連盟の決算、令和元年度本連盟予算の第一次補正、第二十五回参議院議員通常選挙・比例区候補の支援体制について審議した。

岩谷英雄氏(会長) 後藤伸氏(85歳) 元本会評議員、元北海道連合遺族会副理事長 植原政志氏(83歳) 兵庫県遺族会会長 篠原謙之氏(81歳) 元本会理事、広島県遺族会副会長

支部長交代

群馬・神奈川で 群馬県遺族会 清水 基衛氏 (五月二十八日付) 神奈川県遺族会 岩田 全弘氏 (五月三十一日付)

謹 哀悼

新田久重氏(鹿兒島県遺族会元評議員)が、五月二十四日、逝去された。九十歳。葬儀は上村葬祭大崎福祉祭場で行われた。喪主は長女、上釜久美子氏。



新たに就任した女性部役員 = 5月14日、千代田会館で

女性部役員 部長 須賀 宏江 (群馬県) 副部長 野間 征子 (大阪府) 同 小西 照枝 (広島県) 同 川越 禎子 (宮崎県) 同 並木 たか子 (埼玉県) 同 高垣 裕子 (兵庫県) 同 清家 征子 (愛媛県) 同 川越 禎子 (宮崎県)

事務局長幹事会 女性部長 会 青年部長 会 日本遺族会では、事務局長幹事会を五月十三日、女性部長会を同十四日、青年部長会を同十五日に相次いで開催した。事務局長幹事会では、支部事務局長の交代や事務局員・事務局職員研修会の開催日時等の報告、女性部長会では、支部女性部長の交代や女性部役員の新規受章について報告された。女性部長会及び青年部長会では、平成三十一年度(二〇一九年度)事業計画及び収支予算書についての説明があった。各会議では本年四月以降の英霊顕彰や処遇改善新役員は次のとおり。

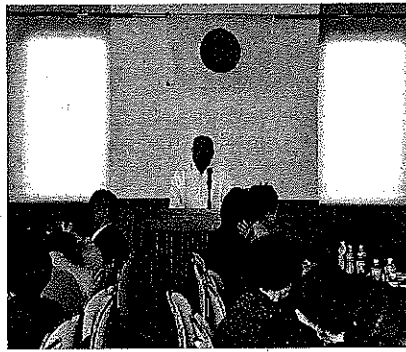
真夏日、全国566地点と見出しに。何と5月の終わりに日本列島は高気圧に覆われ、暖気が流入し、北海道管内で5月の国内最高気温を更新する39.5度を観測する等、各地で厳しい暑さに見舞われた。令和の時代になっても異常気象は変わらぬものかと思われ、国産のトランプ米が大統領ご夫妻を歓迎する天皇・皇后両陛下主催の宮中晩餐会が開かれた。即位後初となる晩餐会には秋篠宮ご夫妻ら皇族方、安倍首相ら閣僚、165人が出席。陛下はご言葉で、日米両国と国民が「様々な困難を乗り越え、相互理解と信頼を育み、極度の親しい関係に育まれた」と述べ、トランプ氏は令和の始まりを祝福した上で、「大切の子孫のために守っていく」と応じた。芸術やスポーツ、最先端技術等幅広い分野で交流が深まる事を願うものである。厚労省は米国防衛省と協力関係を強化する覚書を結んだ。今後両国で収集状況や身元を特定するDNA鑑定等、情報共有し推進をはかるという。先の戦争を風化させる事なく、平和を願う我々のこの熱い思いを、強い友情と絆のもと、子々孫々までしっかりと伝えねばなるまい。(八)

靖国神社 みたままつり 献灯のご案内 靖国神社みたままつりが、七月十三日から十六日まで、四日間賑々しく執り行われます。ご遺族戦友会 崇敬者の方々など、多くの皆様の献灯をお願いいたします。 献灯初穂料 小型献灯 一灯につき 三千元 大型献灯 一灯につき 一万二千元 お願い 申し込みは、左記の靖国神社 事務所献灯係までお問い合わせください。 申込要領等をお送りいたします。 お問い合わせ 靖国神社事務所 献灯係 〒102-8246 東京都千代田区九段北三丁目一 電話 03(3261)8326(代)

結成65周年の集い開催 靖国神社で奉納式・奉告参拝

女性部

日本遺族会は五月十三日、全国の女性部幹部八十六人が東京の靖国会館に参集し「女性部結成六十五周年の集い」を開催した。靖国神社にて奉納式及び奉告参拝、靖国会館で研修会を開き、山口建史靖国神社司宮による記念講演といたった記念行事を実施。本会からは水落敏栄会長(参議院議員)等役員が出席した。



「女性部結成65周年の集い」で講演する山口建史
靖国神社司宮=5月13日、靖国会館で

本会女性部は昭和二十九年に婦人部協議会として発足し、平成十八年に戦没者の妻に女性の遺児を加え、名称を婦人部から女性部と改正し本年六十五周年の節目の年を迎えた。これを記念し「女性部結成六十五周年の集い」を開催した。

本会からは水落敏栄、宇田川敏雄・市来健之助副会長、昨上和男専務理事らが出席した。

午前十一時、百田節子女性部副部長の開会の辞で始まり、初めに水落会長が「時代は令和となり、私たちが遺族会は後継者育成という大きな課題を抱えているが、世界の恒久平和を希求する活動を次世代に繋げるべく、青年部(孫、曾孫等)の方にも広く登録願いたい。次に三浦妙子女性部部長が「光輝ある遺族会の後継者として青年部が自立していくため、女性部の環境を整え、育成、指導、

遺骨収集帰還事業 参加者募集

日本遺族会では、令和元年度戦没者遺骨収集帰還事業への参加希望者の事前登録を行っている。戦没者の遺骨をはじめ青年部(孫、曾孫等)の方にも広く登録願いたい。申し込み登録要項は次のとおり。

▼派遣実施予定地域及び期間 遺骨収集実施予定表参照。

▼派遣資格 ①原則年齢制限はなく、身体健康な者で現地の収骨作業等に従事できる者 ②各都道府県遺族会の会員である戦没者の遺児、孫、ひ孫、甥、姪で、身元健康な者 ③本会の協力団体関係者並びに、本会事業の推進に賛同いただける者

※派遣者は健康診断書並びに宣誓書の提出が義務付けられており、遺骨収集業務を主軸とする日本戦没者遺骨収集推進協会の判断に従う。

▼参加登録方法 在任

靖国神社参拝 国会議員

平成三十一年四月二十三日、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」で参拝した百四十五人(代理人含む)の衆・参議員は次のとおり。

(党別別、敬称略)
議員本人参拝

▼衆議院
【自民党】 逢沢一郎、青山周平、秋葉賢也、池田道孝、伊東良孝、井上信治、井根辰憲、岩田和親、うえの賢一郎、大岸正樹

▼参議院
【自民党】 逢沢一郎、青山周平、秋葉賢也、池田道孝、伊東良孝、井上信治、井根辰憲、岩田和親、うえの賢一郎、大岸正樹

新たに925柱を納骨

眞子内親王殿下ご臨席

厚生労働省主催の千鳥ヶ淵戦没者墓拜礼式が五月二十七日、秋篠宮皇嗣同妃西殿下の長女、眞子内親王殿下のご臨席のもと挙行された。式典では政府派遣の戦没者遺骨収集推進団等が旧戦域で収容した遺骨のうち、DNA鑑定をしても身元が分からないなどの理由で遺族に引き渡せなかつた九百二十五柱が同墓苑に納骨された。約六百人の参列者が戦没者に対し



先導でご参拝に向かわれる眞子内親王殿下=5月27日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

哀悼の誠を捧げた。式典は、午後零時二十分、眞子内親王殿下が御臨席になられ開式された。参列者一同が国歌を斉唱した後、根本匠厚生労働大臣が式辞を述べるとともに、同大臣の手により遺骨が納められた。

今回の拜礼式で納骨された九百二十五柱は硫黄島、ロシア、樺太、ビスマルク、ソロモン諸島、東部ニューギニア、パラオ諸島、トラック諸島、

支援していくことが必要だと挨拶した。

午前十一時三十分、靖国神社参集後、奉納式が行われ、三浦部長から奉納金を山口司宮司に手渡し、山口司宮司から女性部に対し感謝状が贈呈された。続いて奉告参拝が行われ、野間征子女性部副部長の閉会の辞で終了した。

▼参加資格 ①原則年齢制限はなく、身体健康な者で現地の収骨作業等に従事できる者 ②各都道府県遺族会の会員である戦没者の遺児、孫、ひ孫、甥、姪で、身元健康な者 ③本会の協力団体関係者並びに、本会事業の推進に賛同いただける者

※派遣者は健康診断書並びに宣誓書の提出が義務付けられており、遺骨収集業務を主軸とする日本戦没者遺骨収集推進協会の判断に従う。

▼参加登録方法 在任

本会では5月13日以降、開催した各種集いは次の通り。

▼事務局長幹事会 5月13日 詳細は一面に記事として掲載。

▼女性部長会議 5月14日 詳細は一面に記事として掲載。

▼青年部長会議 5月15日 詳細は一面に記事として掲載。

▼常務理事会 5月16日 ①支部寄付金の未収の定年延長について。②第17回理事会に付議する事項③第10回評議員会に付議する事項④第18回理事会に付議する事項⑤令和元年度本会事務局職

員給与改善の事務局職員定年延長について。

▼監事会 5月17日 ①平成30年度本会決算書の監査②平成30年度共済会決算書の監査について。

▼第17回理事会 5月24日 詳細は一面に記事として掲載。

No.	地域名	派遣期間
1	ビスマルク・ソロモン諸島(第1次)	10月5日(土)~10月18日(金)
2	樺太・占守島	11月5日(火)~11月13日(水)
3	マリアナ諸島	11月11日(月)~11月22日(金)
4	パラオ諸島	11月30日(土)~12月13日(金)
5	硫黄島(第4回)	1月29日(水)~2月14日(金)
6	東部ニューギニア	2月12日(水)~2月27日(木)
7	ビスマルク・ソロモン諸島(第2次)	2月26日(水)~3月12日(木)
8	ミャンマー	2月28日(金)~3月12日(木)
9	インド	3月1日(日)~3月12日(木)

一般財団法人 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、英霊顕彰や遺族援護など様々な活動のために賛助金を募っております。本会は、これまで英霊の顕彰並びに戦没者遺族の福祉増進をはかるため、日々活動を行ってまいりましたが、東日本大震災により収益部門であった九段会館が閉鎖したことに伴い、現在、慰霊友好親善事業をはじめ遺骨収集帰還等各種事業の継続が大変難しい状況にあります。本会といたしましては、各種事業を行うにあたり、今後とも努力していくことは勿論のことですが、戦没者遺族並びに本紙ご購読者、本会の諸事業にご賛同される皆様方より一層のご支援、ご協力を仰がなければなりません。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。大変恐縮ですが、ご賛同いただいた方の氏名を本紙に掲載し、お礼に代えさせていただきます。

※賛助金につきましては、誠に勝手ではございますが、お一人様1万円程度からお願いしております。

賛助金のお振込みは

●郵便振替 00130-2-694929
●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0980930
口座名はいずれも「一般財団法人日本遺族会：ゼイ」二ホンイソカイ

※ご不明な点は本会事務局(電話03-3261-5521)までお問い合わせ願います

募集要項は次のとおり。
▼時期及び地域 実施
概要参照
▼参加費 10万円
※東京等に集合し、結
隊式及び渡航に係る説明
会を行う。なお、集合場
所まで及び解散場所から
の交通機関はご自身の手
配になる。また、移動に
係る国内交通費及び帰国
時の宿泊代、渡航手續手
数料等は個人負担となる。
▼参加資格 戦没者の
遺児。平成二十年度参加
者を除き、複数回の応募
が出来る。
▼申込方法 在住する
各都道府県遺族会事務局
へ。参加者の資格審査に
当たり、申込書の記入項
目にて記入を要するの
で、事前に申込用紙を取
り寄せていただき、記入
項目に不明な点(戦没者
の部隊等)があれば各遺
族会に相談し、条件を満
たした上で提出願いた
い。なお、申込多数の場
合は選考となる。
▼時期等は、相手国交通通
関等の事情で変更、延
期または中止となる場
合がある。なお、参加
護師が同行する。

好業 友事 霊善 慰親

遺児の参加者募集

亡き父等の縁の地を訪問

日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、参加者を募集している。この事業は、戦没者の遺児を対象とした事業で、亡き父等の戦没地を訪れ、慰霊追悼を行うとともに、現地の病院や学校等を訪問、友好親善を深めることを目的とする。費用は10万円。

参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目にて記入を要するの
で、事前に申込用紙を取
り寄せていただき、記入
項目に不明な点(戦没者
の部隊等)があれば各遺
族会に相談し、条件を満
たした上で提出願いた
い。なお、申込多数の場
合は選考となる。

お父さんへ

第65回

お父さん、この度日本遺族会の慰霊友好事業に参加して、念願であったシベリアの地に来ることが出来ました。お父さんの最後の地とはいえず、思い出が全くないため、心の中であれこれとためらいつつ、七十年代になって漸く訪ねたいという自然な気持ちになりました。遅くなりましたが、お父さんへお詫言わせて下さうと、心から感謝しています。

さて、遙か遠く昭和十六年秋ごろ、お父さんは出征したと聞いていますが、私は生後半年、母は二十一歳、あなた強制労働の日々がどのようなもので

あつたか、平穩な暮らしを送る私達の想像を絶する過酷なものだった。戦終つた後、九月十日、ハバロフスク、ボラチエフカにて(平成二十五年度旧ソ連参加者千歳遺族会代表氏追悼文)披露

あつたか、平穩な暮らしを送る私達の想像を絶する過酷なものだった。戦終つた後、九月十日、ハバロフスク、ボラチエフカにて(平成二十五年度旧ソ連参加者千歳遺族会代表氏追悼文)披露



ハバロフスク・ボラチエフカで
25年9月

2019年度・戦没者遺児による慰霊友好親善事業・実施計画概要

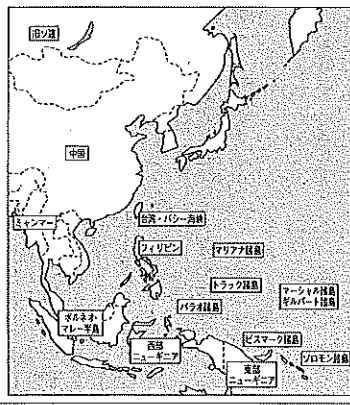
実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 旧ソ連	2019年8月19日(月)~8月27日(火) 8泊9日	40人	2019年6月19日
2 西部ニューギニア	2019年9月5日(木)~9月14日(土) 9泊10日	40人	2019年7月4日
3 ソロモン諸島	2019年9月18日(木)~9月23日(水) 7泊8日	20人	2019年7月18日
4 東部ニューギニア	2019年10月2日(木)~10月9日(水) 7泊8日	42人	2019年8月2日
5 トラック・パプア新ギニア	2019年10月12日(土)~10月18日(金) 6泊7日	40人	2019年8月13日
6 ボルネオ・マレー半島	2019年10月29日(火)~11月7日(木) 9泊10日	40人	2019年8月29日
7 フィリピン(1次)	2019年11月8日(金)~11月15日(金) 7泊8日	120人	2019年9月9日
8 マリアナ諸島	2019年11月20日(木)~11月28日(火) 6泊7日	40人	2019年9月20日
9 ミヤンマー	2019年12月13日(金)~12月21日(土) 8泊9日	60人	2019年10月11日
10 台湾・バシー海峽	2020年2月3日(月)~2月9日(日) 6泊7日	30人	2019年12月3日
11 ビスマルク諸島	2020年2月12日(水)~2月19日(水) 7泊8日	40人	2019年12月12日
12 マーシャル・ギルバート諸島	2020年3月7日(土)~3月15日(日) 8泊9日	40人	2019年11月7日
13 フィリピン(2次)	2020年3月13日(金)~3月20日(金) 7泊8日	120人	2020年1月14日
14 中国	2020年3月23日(月)~3月31日(火) 8泊9日	80人	2020年1月23日

上記14地域の他に特定地域として下記3地域を行う予定です。

1 西部ニューギニア	2020年1月17日(金)~1月26日(日) 9泊10日	36人	2019年11月18日
2 東部ニューギニア	2020年2月12日(水)~2月19日(水) 7泊8日	36人	2019年12月12日
3 ミヤンマー	2020年2月25日(火)~3月4日(水) 8泊9日	36人	2019年12月23日

本紙(同冊)でもお願いしている本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の場合同様にさせていただきます。

本紙(同冊)でもお願いしている本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の場合同様にさせていただきます。



本紙(同冊)でもお願いしている本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の場合同様にさせていただきます。

本紙(同冊)でもお願いしている本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の場合同様にさせていただきます。

本紙(同冊)でもお願いしている本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の場合同様にさせていただきます。

本紙(同冊)でもお願いしている本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の場合同様にさせていただきます。

フィリピン慰霊巡拝

青年部の参加者を募集

本会主催

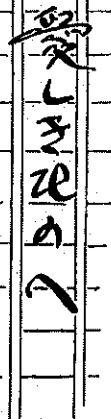
日本遺族会主催のフィリピン戦跡慰霊巡拝について本紙五月号で告知したが、本年度は本会青年部が主体となって企画し、青年部事業の一環として実施する運びとなった。戦争の記憶を風化させないために、慰霊巡拝を体験し、遺族会後継者の育成を目的とした本事業への青年部(戦没者の孫・ひ孫・甥・姪等)の参加者を募集している。

去る五月十五日開催の青年部長会で、青年部事業の七つの柱の一つである「慰霊巡拝への参加」を表現させるため、本会主催のフィリピン戦跡慰霊巡拝を青年部主体で実施することが決まった。

一月九日(木)から一月十三日(月)の四泊五日。実施地域は、ルソン島マニラ及び東方山地、クラーク等。レイテ島オルモック、モンテカンギ、ポット山等の二班を予定。

募集要項は次のとおり。
▼実施時期 令和二年
▼募集人員 40人(予定)
▼参加資格 戦没者の孫、ひ孫、甥、姪等(青年部員及び遺族後継者等)
▼参加費用 十五万円程度

愛する妻へ



信枝殿、御苦勞の程察して感謝してゐる。これも偏に御国の為なのです。何れ身体を大事に出征軍人の妻として両親への孝養、子供や弟妹の教育に養育に備へて分まで御働き下さい。

兄や弟、また両親から「よくやつてくれる」と知らされる度に僕は嬉しくて嘘、君が面影をひしと抱きしめて有難うと言ひたい様な気がします。とにかく、共に耐へ忍んで頑張るべき秋だ。くれぐれも身体を大事にやつてくれ。

(中略)

満代の写真まだかね。できる事なら一家揃つた写真が見たいね。懐かしい気がする。◎注意(これは大声では言ひにくい、実際のところは愛しい我が妻の写真が見たいのだ。常に肌身はなすず抱いてみたいのだ)是非親む。

では何卒御身体を御大事に、皆様へよろしく。

夫より

愛妻へ

※「満代」は、御長女の御名前

(原文のまま)
愛しきものへ

遺留品返還事業の推進

戦没者の遺留品返還活動は本年五月で活動十年目を迎えている。オレンゴン州アストリアのNPO団体OBONSOTEIが代表レックス&敬子・



米国内外から届く遺留品を郵便局で受け取るジーク夫妻 =オレンゴン州アストリア

ジーク夫妻は平成二十一年にアメリカのオークションサイトで売買された遺留品を集め、戦没者の遺族への返還活動を開始した。戦後七十年の年には、米退役軍人とも協議し、内閣総理大臣に直接面会し遺留品を返還しており、こうした取り組みに対し外務大臣から感謝状が授けられている。

OBONSOTEIは返還を希望する退役軍人及びその家族から遺留品を引き取り、持ち主遺族等の捜索活動を行っており、本会は平成二十五年から同活動に協力し、既に本会を通じて二百体以上の遺留品が遺族へ返還されている。

そして平成二十年度に活動に共鳴し、本会が要望した「戦没者遺留品の返還に伴う調査事業」が政府予算に計上され、厚生労働省から本会に事業が委託された。また、本年度も本事業が本会へ委託されることが決まっている。

これまで数多くの日章旗等を遺族の元へ届けられたOBONSOTEIの活動は本事業にとつて不可欠であり、本会は引き続き同団体と連携を密に力を得て、一つでも多くの遺留品が遺族へ返還されるよう事業を推進していく。

九段短歌

元号は令和に変われど戦禍の昭和の苦悶遺族のみぞ知る父の無き運の悪きを接ね返し昭和・平成ひたすら生き抜く

南猪苗代市 原 芳広
新元号発表する父の日父明治生まれ今まは何歳
西陸下訪問供花なれし日をべりユーは休日と定め湯きたつ
英霊と呼ばれし父の沈み海 貨物船ゆく水脈を曳きつ
マキンタラ人間魚雷で無念の死の御書よとわに安かれ
頂きし弔慰金仏にお供えし「天のおかげと遺影に礼申

運者 安 元 百寿子
佐保市 田中 暁
父の無き運の悪きを接ね返し昭和・平成ひたすら生き抜く

長原市 雨森 真子
甲州市 教野 星子
上田市 瀧澤まさ子
千葉市 石橋 嘉子

本だ

追悼 ブーゲンビル 島戦七十五年記念 桐木

父征きて風吹く夜も夜も一人清國の父再び耐えぬ
戦時下のひもじき日々をおもいつりんこの皮をうすくむきをり
遺族会の存続つはこに言ひをりし部長の計帳を嫁御伝へ来

六月二十日は沖縄慰霊の日。一昨年の産経新聞が学徒隊の遺骨戦時遺棄として後世に伝える取り組みを報道していました。沖縄第一中学校の生徒は二七三人が戦地に赴き、二二六人が戦死したとの事。「決死敢闘悔いなし最後まで頑張ります」自分の事は心配なく、又、家中元気でやって下さい。父は父母より去らば、祖国よ、いざ去らば、最後に父母の健康を祈る。以上は修復した五十五点の遺書の一つ。国を護る大義と父母への愛に、読んで胸が痛みます。平成に続き令和の御代も戦争がないように祈りつつ。

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨収集、慰霊友好、慰霊巡拝)、遺族の巡遊改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。

次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料 1,560円 (1年間12回 税金・送料込)

お申込み 日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521

この画集の購入を希望される方は左記まで。一部千七百五十円(送料込) (全国ソロン会事務局) 担当 崎津寛光

住所 〒111-0033 東京都台東区西浅草三三十八-1 寿仙院内事務局電話 〇三三八四一五〇一 (九時~十六時) 担当者 崎津寛光

〇九〇四〇六〇一三七 八八(二十四時間受付)

平武三氏スケッチ画集 本書は、ブーゲンビル島における本格的な戦闘となった昭和十九年三月の第二次タロキナ作戦から本年が七十五年にあたる節目の年であることから、全国ソロン会が記念事業として出版した画集である。

タロキナ作戦の戦闘に從軍し捕虜された桐木平武三氏が現地で見つけたブーゲンビル島の様子をスケッチしたこの画集は、悲惨な戦闘状況だけでなく、現地住民の平和な生活やジャングルでの日本兵の日常などがあり、まことに描きとられていて、当時の状況を知るうえで極めて貴重な生の記録でもある。

追悼

桐木平武三氏スケッチ画集

各都道府県遺族会へ実施された大会、研修会等は次のとおり。

▼徳島県 5月11日 第56回周回部事業(60人)

▼東京都 5月21日 創立70周年記念式典(230人)

▼新潟県 5月23日 市町村地区遺族会長会議(56人)

▼埼玉県 5月29日 支部及び町村事務担当者会議(28人)

▼長野県 5月30日 役員研修会(51人)



全国ソロン会